

議会 ながのはらまち だより

2019
JANUARY
1
No.118

11月臨時会や12月定例会の内容をお伝えします

活動と実態

世界ジオパーク

TOPICS

行ってきました！行政視察（報告）

湯西川ダム

埼玉県小鹿野町

伊豆半島ジオパーク

ここが知りたい！一般質問

6 - 11 分

13 - 17 分

QRコードから議会
だよりをダウンロード
できます



表紙：溶岩塚上にたたずむ割狐塚稲荷神社



旧庁舎最後の議会

11月臨時会・12月定例会で こんなことが決まりました

○11月臨時会（会期11/13）

条例制定・改正		3 件
工事請負・委託契約		6 件
補正予算		1 件
合 計		 10件

主なものを次ページより掲載します。

○12月定例会（会期12/6-12/20）

条例制定・改正		7 件
普通財産の譲渡		1 件
工事請負・委託契約		1 件
補正予算		9 件
意見書の提出		1 件
合 計		 19件

合 計 19件

■12月定例会で可決した議案一覧

議案番号	議 案 名	内 容	関連ページ
議 案	1 号 役場の位置条例等の一部改正	役場新庁舎移転に伴い、条例における役場位置を大字長野原（字久々戸）1340番地1に改める改正などを行うもの。	—
	2 号 防災行政無線施設の設置及び管理に関する条例の一部改正		
	3 号 職員の給与に関する条例の一部改正	人事院勧告に伴い、職員の期末手当などを引き上げるもの。	—
	4 号 町長、副町長及び教育長の諸給与条例の一部改正		
	5 号 議員の報酬等に関する条例の一部改正		
	6 号 福祉医療費の支給に関する条例の一部改正	群馬県の補助金交付要綱の改正に伴い、条例の改正を行うもの。	4
	7 号 公民館設置条例の制定	役場新庁舎への移転に伴い条例を制定するもの。	—
	8 号 普通財産の譲渡	国交省との覚え書きに基づき、町の普通財産3筆を譲渡するもの。	
	9 号 工事委託契約の締結 （町道川原湯温泉幹線街路整備事業関連）	川原湯温泉駅前に整備する湖畔桜沢沿い緑地公園について群馬県と工事委託契約を締結するもの。	4
	10号 18号 平成30年度一般・8特別会計補正予算	平成30年度一般会計や国民健康保険・へき地診療所など8特別会計を補正するもの。	5
発 委	1 号 会計年度任用職員制度施行に伴う臨時・非常勤職員の地位・待遇改善のための財源確保を求める意見書	当該意見書について関係機関へ提出を求めるもの。	1 2

■11月臨時会で可決した議案一覧

議案番号		議案名	内 容	関連
議案	1号	住民総合センター設置及び管理に関する条例制定	住民総合センター設置に伴い、使用料金などの規定を整備するもの。	3
	2号	文化財保護条例の一部改正	文化財調査委員では調査・審議困難な専門性の高い事項を審議する“文化財検討委員”を配置し、報酬額を整備するもの。	—
	3号	特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正		
	4号	工事請負契約の変更 (役場新庁舎・住民総合センター外構工事)	工事費確定に伴い、契約金額を増額して変更契約を締結するもの。	4
	5号 9号	工事委託契約の締結（5件）	ダム関連工事委託契約5件を締結するもの。	
	10号	平成30年度一般会計補正予算	応桑小学校フェンスの補修工事など3,030万円を追加補正するもの。	5

主な議案内容

■使用料表（1時間あたりの単価）

室 名	営利目的町内者	町外者
大ホール	2,000円※	2,500円
研修室	500円※	700円
多目的室	1,000円※	1,300円
創作室	500円※	700円
調理実習室	500円※	700円

※営利目的町外者の場合は5割増

町民は原則
無料で使用可能
12月25日よりオープン
となった住民総合セン
ターの使用料を規定しま
した。
町民については営利活
動を除き原則無料（各室

条例制定
住民総合センター
使用料を規定



講演など多目的に利用できる大ホール



創作室



研修室



住民総合センター入口

照明料を含む）で使用する
ことができます。なお
施設の予約については長
野原町教育委員会（☎0
279・82・4517）
で受け付けています。

■重度心身障害者とは？

下記のいずれかに該当する方。

- (1) 身体障害者1・2級
- (2) 療養手帳A級
- (3) 障害年金1級
- (4) 特別児童扶養手当1級

■減額認定証って？

住民税非課税世帯の方が申請して交付を受けることができる“標準負担額減額認定証”のこと。これを提示することで入院時の医療費や食事療養費（食事代）の自己負担額が軽減されます。

なお認定証を提示しない場合は一般の区分額が適用されます。

群馬県福祉医療制度は子どもや重度心身障害者など、一定の条件を満たす方が医療機関に受診した際にかかる保険診療の一部自己負担額を県や町が負担する制度です。このたび県補助金交付要綱

の改正に伴い、町福祉医療費支給に関する条例を改正しました。現在まで重度心身障害者における入院時食事療養費の自己負担分は全て助成となっていました。が、平成31年度より標準負担額減額認定証を提示した方のみが助成の対象となります。

入院時食事療養費 助成対象を変更

条例改正

認定証提示必須に 食事療養費助成

重度心身障害者

工事委託・請負契約

ダム
関連

公園・遊歩道 整備事業などを委託

■11月臨時会（11/13）

工事請負契約変更	1件
工事委託契約	5件
11月合計	6件

■12月定例会（12/6・初日）

工事委託契約	1件
--------	----



1. 長野原草津口駅自由通路へエレベータを設置します 2. 12月25日に開庁となった新庁舎

（千円以下切り捨て）

事業・工事名	契約金額	契約先	備考
役場新庁舎・住民総合センター外構工事	1億877万円	都・加田・今井特定JV	変更契約（金額は変更後）
金花山温泉公園整備事業	2億2,507万円	国土交通省 関東地方整備局長	ハッ場ダム関連事業
王城山自然探勝路整備事業	2億3,038万円		
横壁・林地区かんがい排水事業	2億3,568万円		
川原湯温泉駅前広場整備事業	6,534万円		
JR長野原草津口駅前広場整備事業	6,534万円		
町道川原湯温泉幹線街路整備事業	9,133万円	群馬県知事	川原湯温泉駅前広場 湖畔桜沢工区その2

一般会計補正額一覧

■11月臨時会 (11/13)
一般会計補正予算 (第5号)
3,030万円増額
(計145億8,939万9千円)

■12月定例会 (12/13・2日目)
一般会計補正予算 (第6号)
5億4,619万1千円増額
(計151億3,559万円)

応桑小フェンス 補修など実施

主な補正内容



質疑応答

小水力発電事業
実施予定は

問 黒岩議員 小水力
発電の事業性評価
後、実際に事業を実施す
るのか。

評価結果をみて
判断する

答 企画政策課長 現
在、狩宿原町有地
(応桑)と新井橋下(与
喜屋)の2カ所を検討し
ており、補助金を利用し
て事業性評価を行う。こ
の結果、採算がとれない
ようであれば当事業を実
施しない場合もある。

温泉利用券販売の
状況どうか

問 牧山議員 新温泉
入浴事業である温
泉利用券販売の現況はど
うなっているか。

購入者
計173名となった

答 町民生活課長 平
成30年9月から開
始した事業である。11月
末現在において王湯・絹
糸の湯・プレジデントリ
ゾート軽井沢の3施設で
延べ2095名の利用が
あった。温泉入浴券は11
月15日現在で計173名
が購入しているところ。

ふるさと応援寄附金
状況どうか

問 大羽賀議員 ふる
さと応援寄附金の
現況はどうなっている
か。

約1億8000万円の
寄付となった

答 総務課長 平成30
年4月から11月ま
で2533件の寄付があ
り、合計1億8270万
5千円となっている。



視察報告

湯西川ダム

湯西川ダムの水陸両用バス

課題あるが 地域活性化つながる

10月23日、栃木県の湯西川ダムにおける湖面利用や観光事業である水陸両用バスを主な目的とし、議員全員および町当局などと合同で現地視察を実施しました。

当ダムは鬼怒川上流ダム群4番目のダムとして平成24年に試験湛水を完了した最も新しいダムです。

概要 地域活性化 目指しバス導入

視察当日は観光センター「湯西川水の郷」を会場に、日本水陸両用車協会の須知代表理事や鬼怒川ダム統合管理事務所の新井所長より概要説明を受けました。

湯西川ダム地域（旧栗山村）は典型的な過疎地域となっており、昭和40年から平成22年までにいて人口が約6割減少し、主要産業である観光については湯西川温泉の宿泊客数に減少が見られました。

現況 年間約2万人 宿泊客の増加も

当水陸両用バスは1日8便運行（一部シーズンは10便）し、ダム湖遊覧約20分、ダム見学約40分、陸路約10分、計70分程度のツアーとなっており、年間約2万人の観光客が乗車しており、年間

このような中、活力ある地域づくりを目的にダム湖では日本初の水陸両用バスによる観光事業化を実施したとのことでした。



「湯西川水の郷」での概要説明



視察レポート

富澤 重男 議員

栃木県湯西川ダムにおける湖面利用や観光誘致の中心である水陸両用バスの運行状況を視察しました。当日は日本水陸両用車協会の須知代表理事などから概要説明を受けた後、バスツアーを体験しました。

バスは1日8便の運行を基本とし、1日150人から300人程度が乗車（乗車率平均約60％）するとのこと、年間にする約2万人が利用するそうです。それほど交通量がない地域と感じましたが、2万人程度の観光客誘致が見込めることは大変貴重であり、ガイドの対応が良い点も重要なポイントであると思います。なおエリア内にある道の駅などの売り上げについても増収となっているとのことでした。

ハツ場ダム完成まであとわずかではありますが、本町も湖面利用を含め「ワンストップ長野原・ハツ場」を目標に工夫をしていく必要性があると感じました。



ダム湖面



水陸両用バスを体験

課題

自然災害対応・雇用形態課題

約8500万円の売り上げがあるとのことですが、また利用客の約7割が宿泊しているデータもあることから地域経済活性化にもつながっています。

水陸両用バスによる観

光事業は全国でも珍しいものであるとともに、地域で独占した運営ができることが強みであるとのことでした。しかし、最も利用客が増える夏に発生する渇水や自然災害が続くと運休も余儀なくされ

ることでした。

なおハツ場ダムにおける湖面利用については、水陸両用バスや観光船、カヌー・カヤックなどの利用を検討しています。今後は湖面利用協議会の立ち上げや検討を行い、湯西川ダム同様に堤体内見学を絡めたツアー実施などの工夫が必要となります。



迫力あるダム本体

議会行政視察を11月6日～7日（1泊2日）に実施し、初日（午前）に埼玉県小鹿野町の地域包括ケアシステムについて視察を行いました。

同町は埼玉県北西部に位置し、秩父市と群馬県神流町に接しています。平成16年には地域包括ケアへの取り組みが認められ「第56回保健文化賞」を受賞しました。

病院・行政一体化 多職種連携図る

概要 多職種連携 隙間ない支援

小鹿野町の保健・医療・福祉は「地域ケアシステム」と「健康づくり」の2本立てとなっています。同町における地域包括ケアシステムへの取り組みは、視察会場となった国保町立小鹿野中央病院を土台としています。また町福祉課や保健課を設置している保健福祉センターが併設されており、病院と行政機能の一体化がなされています。このような中、医師

や保健師、ケアマネージャーなど多様な専門職で構成する多職種連携会議の実施により、隙間のない支援の実現を目指しています。

事業 特徴ある 健康づくり事業

同町は昭和53年から健康づくり事業に取り組んでおり、町職員などが各地区へ出向く健康教室や重りをつけて行う「こじか筋力体操」など多様な事業を展開しています。これら事業は筋力維持や介護予防を主な目的と

地域包括ケアシステムの先進地である小鹿野町は、人口1万4000人の「花と歌舞伎と名水のまち」である。

平成16年に保健文化賞を受賞した小鹿野町の地域包括ケアシステムにおける取り組みは昭和28年に開設した町立病院を核としている。昭和53年から健康づくり事業への取り組みを行っており「こじか筋力体操」や「いつでも健康相談（24時間対応）」など現在も多彩な事業を展開しているところである。このような中、町職員や保健師が地域に出向いて健康教育を実施するなど住民との信頼関係構築や自助・共助力の強化も図っている。

小鹿野町の特徴の一つに町立病院と保健福祉センターが併設している点があげられる。この環境をいかし、多職種が集う連携会議の実施を基礎とした隙間のないサービスや新たな取り組みを生み出す姿勢は本町も参考とし、取り入れていくべきであると考えている。



行政視察レポート

牧山 明 議員



国保町立小鹿野中央病院での概要説明



1. 病院と併設された保健福祉センター 2. 病院内の様子

成果

県下最低値の 後期高齢者医療費

同町の地域包括ケアシ

して実施しており、同町の高齢者（65歳以上）4760人のうち、要介護認定者15・2%、要支援認定者3・4%と約8割が「元気高齢者」となっていることから事業の成果が見られます。

システムや健康づくり事業への取り組みにより、平成28年度における一人当たりの後期高齢者医療費が73万6311円と埼玉県内で最低値となりました。なお同年度の埼玉県平均83万7312円と比較すると約10万円の差がついています。

その一方で同町の特定健診受診率は37%と低い

水準となっているとこのとでした。病気の早期発見や重症化予防の観点からも喫緊の課題となっており、対策として健診や健康づくり事業への参加により景品と交換できるポイントを付与する事業を実施しているとのことでした。

行政視察

伊豆半島 GIP



鮎堂の滝（長泉町）

情報共有・

ジオ教育に努力

行政視察初日・2日目（11月6日午後～7日）に静岡県の伊豆半島ジオパークを視察しました。

当ジオパークは7市8町・民間（関連）団体により構成されており、平成24年に日本ジオパーク認定後、平成30年には世界ジオパークに認定されています。

連携 地域の温度差・事情さまざま

視察初日は伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」を視察し、当ジオパークの活動や取り組みなどについて鈴木館長と高橋専門員より説明を受けました。

視察2日目には認定ジオガイドの鈴木さんと池

谷さん案内のもと、各ジオサイトの現地視察を行いました。

当ジオパークは対象地域が広範囲にわたり、地域ごとに事情が異なることでした。これらのことから地域住民や団体を問わずジオパークに対する温度差があり、未だ住民の認知・理解度も低い状況にあるとのこと

す。

世界ジオパーク認定後においても画一的な活動が困難である中、企業や商店などが入会できる「応援会員制度」や個人が入会できる「サポーター制度」を設け、情報提供やイベントを行うなど情報共有や連携を図っています。



ジオリアでの概要説明

ガイド 稼げるガイド 養成に課題

世界ジオパーク認定後はジオガイドの依頼が増加傾向にあるとのこと
で、平成24年に設立した

伊豆半島ジオガイド協会には現在約100名のガイドが所属しています。
当ジオパークは「稼げる有料プロガイド」養成を目標としています、現在もガイドだけで生計



菊まつりが開催中（視察時）の国天然記念物・名勝の楽寿園（三島市）



割狐塚稻荷神社（長泉町）



源兵衛川（三島市）



丹那断層公園（函南町）

を立てている例はごくわずかであるとのことでした。またボランティア自体に誇りを持つガイドの存在など各ガイドにおける意識の差もあり、ジオガイドが一つの職業として成り立つ環境づくりは世界ジオパークに認定された後も困難であるようでした。

教育 ガイドによる ジオ教育推進

当ジオパークは推進協議会内に教育部会を設置し、各市町教育委員会との連携を図るなどジオ教育に注力しています。

ジオ教育のモデル地区ではジオガイドによる段階的教育を実施しており、各地区により状況は異なりますが今後はこのようなジオ教育の形を拡大していきたいとのことでした。



行政視察レポート
黒岩 巧 議員

今回は平成30年4月に世界ジオパークに認定された伊豆半島ジオパークを訪れた。このジオパークの推進協議会は7市8町や観光商工などの関連団体で構成されており、静岡県も会員となっている。また独自の応援会員制度を設け、100社以上の会員が存在しているとのことである。

2日目にはジオガイド案内のもと楽寿園（三島市）や丹那断層公園（函南町）、鮎壺の滝（長泉町）を視察した。また昼食で立ち寄った酪農王国オラッチェでは、酪農とジオが結びつくことで6次産業化を実現している施設となっており、大変参考になったところである。今回視察したジオサイトは広大な伊豆半島ジオパークのごく一部である。機会があれば他のジオサイトも訪れてみたいと感じた。

受理番号24号位置図



受理番号26号（雲林寺裏）

雲林寺裏 災害防止へ県要望

11月末日までに受理された陳情4件は、
12月議会定例会（初日6日）に所管の常任委員会へ付託・審議されました。（詳細下表）

総文 関係機関へ 意見書を提出

総務文教常任委員会へ
付託された陳情2件は採
択1件としました。なお

羽根尾区提出の陳情は、
補助対象が区拠点施設1
力所のみとなることから
当陳情については対象外
となるため不採択としま
した。

産建 治山事業実施を 県へ要望

産業建設常任委員会へ
付託された陳情2件は全
て採択としました。

北軽井沢区提出の陳情
については電柱移設など
が生じる可能性があるこ
とから調査・検討した上
で実施することとしまし
た。また長野原区提出の
陳情については治山事業
実施を県へ要望すること
とし、採択としました。

■表1 総務文教常任委員会における審査結果一覧

	件名	提出者	内容	結果
受理番号	23号	県自治体一般労働組合 執行委員長 宮内 政己	制度施行に伴う待遇改善への財源確保を国へ要望する意見書提出を求める陳情。	採択 (意見書提出)
	25号	羽根尾区長	当該屋根の補修にかかる費用補助を求める陳情。	不採択

■表2 産業建設常任委員会における審査結果一覧

	件名	提出者	内容	結果
受理番号	24号	北軽井沢区長	国道146号（JA北軽井沢応桑支店付近）と町道10-67号線における交差部分角取りを求める陳情。	採択 (調査・検討)
	26号	長野原区長	長生病院や雲林寺裏の災害防止などの治山事業を求める陳情。	採択 (関係機関要望)

ここが知りたい!

一般質問

質問者	質問内容	ページ
富澤 重男 議員	農地利用最適化推進委員制度 制度実施の成果や展望示せ	14
大羽賀 進 議員	住民総合センター有効利用すべき	15
牧山 明 議員	大規模災害への具体的準備あるか	16
黒岩 巧 議員	モータースポーツ発祥の歴史 歴史いかした誘致・振興すべき	17

※紙面の都合により要約・省略などの編集を行っておりますのでご了承ください。

議会傍聴のご案内

あなたも議会を 傍聴しませんか？

議会定例会や臨時会の様子はどなたでも傍聴することができます。

傍聴される際は議会開催日に議場までお越しいただき、受付簿に氏名や必須事項を記入の上

で傍聴をお願いします。

なお開会時間は開催日によって異なり、カレンダーなどで掲載している日程も変更となる場合があります。傍聴を希望される方はあらかじめ長野原町議会事務局（☎0279・82・3019）までお問い合わせください。

次回定例会は…

平成31年3月定例会

7日（木）

14日（木）

19日（火）

農地利用最適化推進委員制度

制度実施の 成果や展望示せ



遊休農地解消 新規就農者支援図る

問

農地活用や活性化が目的である農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」とい

う。）制度が施行されているが、未だ町における遊休農地や耕作放棄地は多いと思われる。中山間地で単位面積が狭い

など条件が厳しい中、制度導入以来どのような実績となっているのか。また今後の展望についてどのよう

答

町長 推進委員における現在までの

主な活動については、農業委員と連携した荒廃農地防止へのパトロール活動や調査の実施、相談対

応などに取り組んでいるところ。平成29年度における農業委員会全体の実績は18％の農地利用集約化、遊休農地解消0・2

％である。

現在は農地利用者などへのアンケートを実施しており、利用状況を把握したいと考えている。この結果により、今後は推進委員に農地貸し借りの調整役となってもらい、農地利用集約化を図るなど引き続き遊休農地発生防止や解消に取り組む予定である。また移住定住施策促進と併せ、新規就農・参入者への支援活動も実施していきたい。

問

遊休農地などについては町だけでなく日本中の課題となっている。今後については町独自の施策を実施する必要があるのではないかと考えている。引き続き担

答

町長 当制度は農業を守ることを目的としている。町の農業

を取り巻く環境は応桑・北軽井沢地区とその他地区では全く異なるところである。前者は集約や集積が課題となっており、後者は遊休農地などの解消が課題であると感じている。農業委員会と相談すべきことだが、農地や空き家をセットとした移住定住施策を発信していくことなども考えている。

まだまだ町の農業につ



農地と住宅が一体となった事業
「クラインガルテンやんば」

いて知識不足の点があると感じている中、大人やこどもに限らず地域や農業をよく知り、守っていく人材育成や教育も重要であると考えている。今後、酪農業は町の大きな宝になると確信しているところ。これを守るため、農業委員会に限らず全ての人間が意識改革をする必要がある。



おおはが すすむ
大羽賀 進 議員

住民総合センター 有効利用すべき

文化協会と連携 芸術振興など図る

問

住民総合センターは住民や町の発展に貢献していく施設となると期待している。特に子どもについては一流の文化や芸能などに触れてほしいと考えている。予算は必要となるが、今後における施設の活用についてどのように考えているのか。

答

町長 施設利用にあたり11月に説明会を開き、既に多くの問い合わせや申し込みを受けていることから町民の関心は高いと感じている。また図書室については蔵書を増やすなど、利用者をお迎えする準備が整った。

本施設は町民のコミュニ



1. 明るく快適な空間となった図書室
2. 交流スペース

問

予算の都合もあるが、子どもに一流のものへ触れさせることが一番の人材育成につながると考えている。ある番組で県出身芸能

人による講演をいきいきと聞いている子どもの姿が印象に残っている。町もこのような事業に積極的に取り組むべきであると思うがどうか。

答

町長 例え一流でなくても、様々なものに触れる機会が重要であると考えている。

このような事業は予算のかかるものもあるが、無料で実施できるものもある。その部分も併せ、施設活用方法の検討について各課長へ指示をしたところである。

答

教育長 現在までに触れる機会を各学校ごとに設定してきたところ。今後は各学校で実施するものや全体で行うものを分けながら積極的に計画していきたいと考えている。

大規模災害への 具体的準備あるか



まきやま あきら
牧山 明 議員

町民1割被災時 3日間飲食可能に

問

平成30年は7月の西日本豪雨などの大規模災害が猛威を振るい、多くの人が避難生活を余儀なくされた。これから大規模災害に対し、避難所などをはじめとした町の準備はどの程度できているのか伺う。

答

町長 議員指摘のような自然災害に対処するため、地域防災計画では指定避難所20施設、福祉避難所として老人福祉センターを指定している。

また避難時に必要となる備蓄物資については町内防災倉庫3基、中学校校および北軽井沢小学校体育館の備蓄倉庫に配備

しているところ。現在、

飲料水やアルファ米などの整備を進めており、平成31年度には町民1割が被災した場合に3日間飲食できるような配備予定である。その他、簡易トイレや寝具なども配備を進めている。

今後は新庁舎や住民総合センターが防災拠点となる。現在の防災計画を見直すとともに備蓄物資についても更に充実していきたいと考えている。

問

避難所に必要とされるものはトイレやキッチン、ベッドであると言われている。災害時は生理用品や車いすなど、細かいものも含め多

くのものが不足することが想定される。これら生活用品など使用期限の長いものについては、早い段階から用意する必要があると考えるがどうか。

答

町長 未だ不足する部分は多いと認識している。災害発生直後は支援物資が届くまでを考慮し、最低3日分の備蓄確保が必要と言われているが、どの程度確保すれば良いか不透明な部分がある。

このような中、町はコープぐんまなど多くの機関と防災協定を結んでいるところである。備蓄品などの準備を行うのと同時に、様々な機関と連携することも重要であると考えている。

問

防災意識の向上は災害に備えるという点で最も重要であると



備蓄品

答

町長 防災意識向上という点では羽根尾区の自主避難訓練が成功事例である。

これらのことから自分の地区は自分で守るという風潮を強めることが重要であると感じており、町民一人一人が災害時に命を守るための判断ができる体制を作っていくと考えている。是非とも各地域代表である議員皆さまがリーダーシップをとっていただきたい。

ここが知りたい！
一 般 質 問



モータースポーツ発祥の歴史

歴史いかした 誘致・振興すべき

誘致は有効 協力のあり方検討

問

昭和30年に北軽井
沢をスタートおよ
びゴール地点に第1回全
日本オートバイ耐久ロ
ードレースが開催され
るなど、本町はモータ
ースポーツの聖地とし
ての歴史がある。これ
らをいかした関連イ
ベントの誘致

答

や振興について町長
の考えを伺う。

町長 町営浅間園
には二輪車展示館
「浅間記念館」が設
置されており、浅間
ミーティングなどに
よるイベントが実
施されるなど、北
軽



1. 浅間記念館の外観

2. 企画展示も定期的に開催されています

問

モータースポーツ
関係者にとつては
「浅間」というコン
テンツは大変魅力が
ある。

また当スポーツ発
祥の地は本町や嬭
恋村でもなく浅間
高原であるという
ことを広めたいと
考えており、ジオ
パークと同様に嬭
恋村と連携してい
く必要があると考
えている。関連イ
ベントの誘致や振
興に対し、町の協
力をお願いしたい。

答

町長 全国各地に
おいて各分野のマ
ニアが力を発揮し
、活

井沢はモータースポーツ
と縁が深い地域である。
このような背景から関
連イベントを誘致し、地
域を盛り上げていくこと
は非常に有効であると考
えている。今後は町とし
てどのような形で協力が
できるかを検討したい。

用・連携しながら地域お
こしを実施しているケー
スは多い。その反面、音
や景観など環境へ配慮す
ることも必要であり、
様々な壁に直面するのは
当然であると考えてい
る。これに対する行政の
役目としては壁を取り除
くことではなく、受け入
れてもらえるための橋渡
しの方法やルールを考え
ていくことが重要である
と考えている。

必ず浅間高原や本町に
合致するマニアの方々が
存在すると考えている。
重要なのはそういう方々
の動きなどを見過ごさな
いアンテナの高さであ
る。本町が当スポーツ発
祥の地であることの再確
認を行いつつ、情報共有
しながら議員皆さまのご
協力をいただきたい。

議会広報の役割

手法など学ぶ

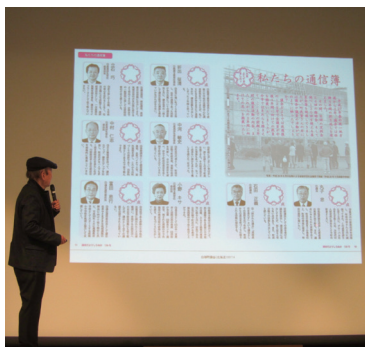
広報の改善点など
指摘受ける

県内町村議会議員を対
象とした広報研修会が11

月14日、群馬県市町村会
館（前橋市）を会場に開
催され、本町議会広報編
集委員が参加しました。
近年、各自治体議会で



パワーポイントを用いた講演の様子



紙面づくりのポイント解説

発行する議会広報は定例
会以外における情報の充
実やレイアウトなどにっ
いても工夫が求められて
います。このような中、
今回の研修では広報アナ
リストの吉村潔氏を講師
に「住民に読まれ、支持
される広報づくりのポイ
ント」と題した講演が行
われました。

また講演後には、講師
から実際の紙面に対する
指摘やアドバイスを受け
ることができる議会広報
クリニックが行われまし
た。今回、本町議会広報
についても作品を提出し
改善点などアドバイスを
受けました。

地方創生 議会の役割重要

県内町村議会議員を対
象とした群馬県町村議会
議員研修会が10月26日、
吉岡町文化センターを会
場で開催され議員全員で
出席しました。

今回は、山梨学院大学
教授の江藤俊昭氏による
「町村議会議員の議員報
酬のあり方について」と
題した講演や早稲田大学



公共経営大学院教授の片
山善博氏による「真の地
方創生と地方議会の役
割」と題された講演が行
われました。



事務局職員あわせ約300人が出席

大笹北軽井沢線 進捗に目途

12月21日、国道改良等促進特別委員会による町内道路整備事業（県事業）現地調査を実施しました。
今回の調査では中之条土木事務所（長野原事業所長）案内のもと、県道2力所と国道1力所を全委員で視察し、進捗状況などを確認しました。



光ファイバー移設予定の大笹北軽井沢線

図① NTT工事後 残工事に着手

地蔵川付近の拡幅・線形改良工事を実施している県道大笹北軽井沢線ですが、光ファイバー移設の問題により遅れが生じております。
現在は改良済み区間の舗装工事を実施している状況で、NTTによる光

図② 小宿橋 劣化激しい

県道嬬恋応桑線については約3・8㌔にわたる整備が完了し、現在は小宿橋の拡幅・補修工事を実施しています。なお想定より橋の劣化が著しいなどの要因により遅れが生じ、平成32年度の完成

ファイバー移設工事後（平成31年3月完了予定）に残工事に着手予定であるとのことでした。

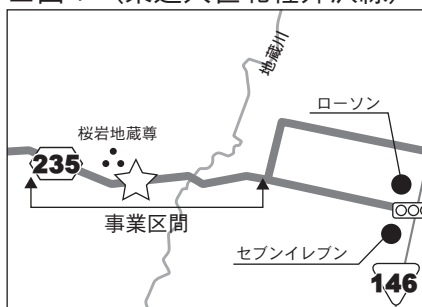
図③ 浜岩橋架替へ 予備設計

羽根尾交差点から国道146号約2㌔のうち一部区間は線形改良工事が完了し、平成30年度は残区間の道路詳細設計や浜岩橋架け替えに伴う予備設計を行っています。今後は用地調査や交渉、買収後に順次工事へ着手する計画で、平成36年度完成を目標としています。



1. 拡幅・補修が行われる小宿橋
2. 架け替えが行われる浜岩橋

■図1（県道大笹北軽井沢線）



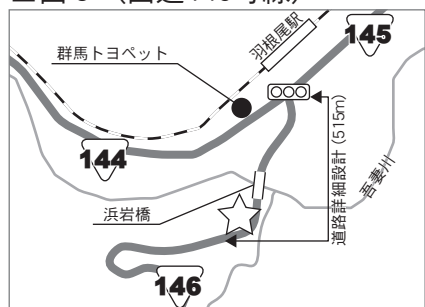
※凡例 △：国道 □：県道

■図2（県道嬬恋応桑線）



☆：写真撮影箇所

■図3（国道146号線）



受章者や町関係者など迎え

新天地で

新年初めの挨拶交わす

町新年交歓会が平成31年1月6日（日）、住民総合センター（大ホール）を会場に開催されました。今回より会場を当センターに移しての開催となったこの交歓会は、昨年に旭日章を受章された吉澤さんや藍綬褒章を受章された永井さんをはじめ、多くの町関係者を迎え盛大に執り行われました。

長野原町新年交歓会



住民総合センター（大ホール）で行われた当交歓会の様子



万歳三唱の様子



吉澤さんご挨拶



永井さんご挨拶

編集後記

明けましておめでとうございます。今年は亥年ということで「猪突猛進」という言葉を連想する方もいるかと思います。

本町においては八ッ場ダム完成まで残りわずかになるなど、課題が山積しております。これらに対し猪突猛進に突き進むだけでなく、着実に歩みを進めていく必要があると考えております。

本年は議員改選の年となりますが、改めて議員一丸となり努力していく所存ですので皆さま方の変わらぬご支援ご協力をお願いいたします。

◎広報委員

委員長 黒岩 巧
委員 牧山 明

浅井 進
富澤 重男